

## 学校でできる

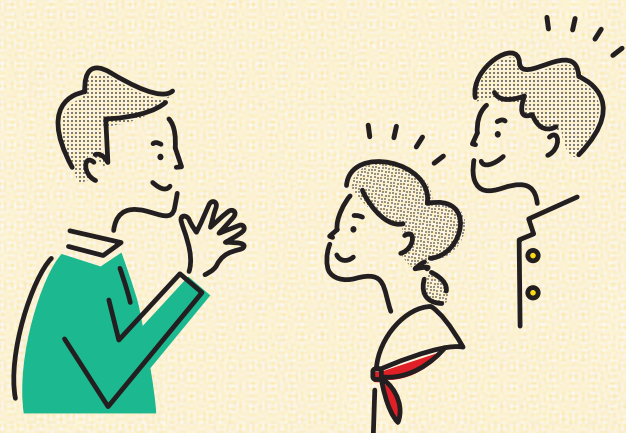
### 「ふくし」に気づく時間に。

福祉とは、どんな意味を持つのでしょうか？私たちが考える福祉は「ふだんのくらしをしあわせにする」ということです。福祉とは、高齢の方、障がいのある方、困っている人のためだけにあるのではなく、学校で過ごす子どもを含め、全ての人のために必要なものです。

中学で過ごす3年間は本当にあっという間です。しかし、その3年間の体験がこれからの人生にとって大きな影響を与えます。だからこそ、私たちはちがいを知り、認め合うことの大切さを知ってほしいと思っています。

私たちが考えるプログラムのテーマは、「知る」「出会う」「考える」です。複数回の授業を通し、知っただけで終わらず、日常の行動に繋げていくことが今回の大きな狙いです。

福祉を体験するプログラムを通じて、みんながしあわせに過ごすための行動を考えるきっかけになれば幸いです。



## 実施の流れ

～授業依頼の申し込み受付は2023年8月31日(木)までとさせていただきます。～

### ① 学校からNPO法人み・らいず2への依頼書の送信

福祉教育プログラム訪問授業実施依頼書 (WEBフォーム) に必要事項を記入の上、送信ください。

**【提出期限】**  
8月31日(木)まで  
期限を超えてからのご相談はお問い合わせください。

※実施は先着順となっており、年度末のご依頼はお受けできない場合がございます。

Webフォーム



### ② NPO法人み・らいず2・関係団体、ご依頼元の学校との日程調整

提出いただいた依頼書を基に、訪問授業に関する打ち合わせを行います。事前にヒアリングを行い、適切な形でプログラムの提案を行います。

### ③ 授業の実施

事前打ち合わせの内容を基に、授業を実施します

※授業には大阪市福祉局の担当者が同席する場合があります。

### ④ アンケートの実施・共有

生徒向けアンケートをNPO法人み・らいず2から学校へお送りしますので、授業実施後にご協力をお願いいたします。記入いただいたアンケートはNPO法人み・らいず2宛に、下記の方法で共有をお願いいたします。

**【アンケート共有方法】**

以下のいずれかの方法でご共有ください。

(ア) メールでの共有 : fukushiru@me-rise.comまで、スキャンしたアンケートをご送信ください。

(イ) 郵送での共有 : 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-4F-106までお送りください。

## 運営・お問い合わせ

NPO法人み・らいず2 福祉教育事業「フクシル」  
担当: 宮武・岩本  
〒530-0001  
大阪府大阪市北区梅田1-3-1-4F-106

TEL 050-5357-8567

MAIL [fukushiru@me-rise.com](mailto:fukushiru@me-rise.com)

<https://www.fukushiedu.info>

WEB SITE  
QRコード



※本事業は、大阪市「福祉ボランティアコーディネーション業務」の一環で、NPO法人み・らいず2が主体で実施しています。

実施  
無料

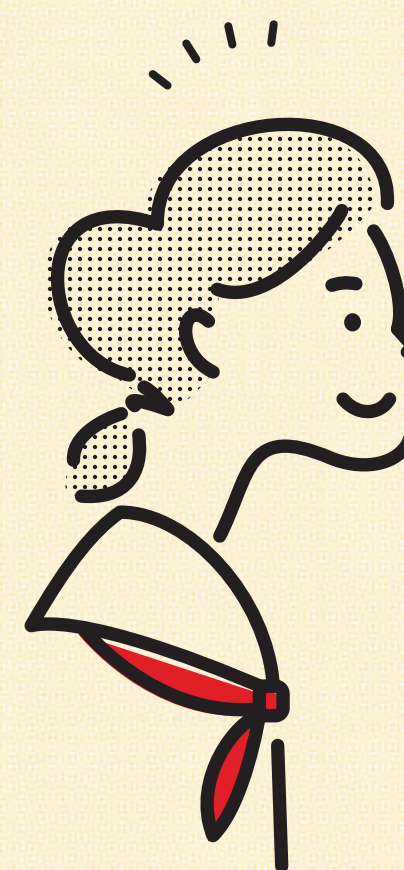
FUKUSHI education

中学校の総合学習などの時間で  
福祉教育を考えている先生方へ

## 福祉を身近に感じる授業

# フクシル

— 福祉教育プログラム —



相手も自分も  
認め合うことの大切さに  
気づいてほしい



<https://www.fukushiedu.info/>



学校のご要望に応じて、授業内容や回数は柔軟に対応できます。  
また、現場体験プログラムや教員向けの研修も実施できますので、お気軽にお問い合わせください。

STEP1

事前授業 自分を知る学習



●テーマ例「自分の説明書を考える」

「自分の得意なもの、苦手なもの、好きなものや苦手なものについて、振り返ってみる授業です。辛かったときに自分はどんな行動をとるのか？相手にはどうして欲しいのか？自分は何が得意なのか？を考えます。また、クラス内でも共有し、同じ教室内でもさまざまな違いがあることを感じてもらいます。

こんな授業に

- ・福祉教育の導入として、より基本的なことを伝えたい。
- ・訪問授業をより効果的に実施したい。

STEP2

訪問授業 出会い、気づく学習



スタッフがお伺いする訪問授業です。以下のテーマからお選びいただけます。

●テーマ例1「一人一人の違いを学ぶ授業」

スタッフがお伺いし、どんな人にもある発達の凸凹についての具体的な事例やワークショップを行います。違いがあってもそれが当たり前だということ、助け合うことの大切さについて学びます。

こんな授業に

- ・一人一人がお互いを認め合えるようになってほしい
- ・発達障がいや発達の凸凹について伝えたい

●テーマ例2「多様な違いのある当事者の授業」

実際に障がいのある当事者の方をゲストに招きます。違いや当たり前、普通とは何かについて、対話をしながら学んでいきます。

こんな授業に

- ・社会的マイノリティの当事者のリアルに触れてみたい
- ・障がいに対するネガティブなイメージを変えたい

●テーマ例3「福祉現場で活動する大学生との対話の授業」

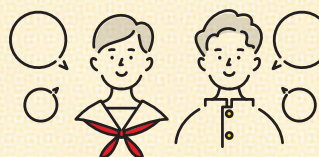
福祉現場で活動する大学生と、福祉のことを語り合います。大学生が福祉現場で感じたリアルな話を聞いて、福祉をもっと身近に感じてもらえるようになる授業です。年齢・価値観がより近い存在からの話を聞くことで、等身大の福祉を学んでいきます。

こんな授業に

- ・大学生と対話をしながら、将来のイメージを膨らませたい。
- ・ボランティアなどの福祉活動に関心を持って欲しい。

STEP3

事後授業 考え、伝える学習



スタッフがお伺いする訪問授業です。

●テーマ案「学校でみんなができることを探してみよう」

知って終わりにならず、自身の過ごしを踏まえて、これからクラスで何ができるのかを考えてみる授業です。ゲストの講話の振り返りだけでなく、自身で考える時間をつくり、学びを深めることが狙いです。学年・学校のグループワークの慣れ具合に合わせたワークショップを行います。

こんな授業に

- ・福祉教育の訪問授業をより日常の過ごしにつなげていきたい
- ・事後学習をより効果的に実施したい

「一人一人の違いを学ぶ授業」

スタッフが訪問し、どんな人にもある発達の凸凹についての具体的な事例やワークショップを行いました。違いがあってもそれが当たり前だということ、助け合うことの大切さについて学ぶことが狙いです。

●授業のねらい

- ・一人一人がお互いを認め合えるようになってほしい
- ・発達障がいや発達の凸凹について伝えたい

●プログラム例（100分2コマ）

- 1.ちがいを知る「大事なもののゲーム」（40分）
- 2.「障がい」ってなんだろう？（10分）
- 3.特性の凸凹による見え方や聞こえ方を体験しよう（30分）
- 4.振り返り、まとめ（20分）



「多様な違いのある当事者の授業」

実際に障がいのある当事者の方をゲストに招きます。違いや当たり前、普通とは何かについて、対話をしながら学んでいきます。

●授業のねらい

- ・社会的マイノリティの当事者のリアルに触れてみたい
- ・障がいに対するネガティブなイメージを変えたい

●プログラム例（100分2コマ）

- 1.オリエンテーション（10分）
- 2.バラスポーツのデモンストレーション（65分）
- 3.障がいに関する講話（10分）
- 4.振り返り、まとめ（15分）



●ゲスト：大内秀之氏

大学卒業後、高齢者施設、民間企業を経て2012年社会福祉法人堺市社会福祉事業団に就職。現在、堺市立健康福祉プラザ市民交流センターに配属され、障がい者アートの企画運営をおこなっている。車いすバスケットボール選手、パラクライミング選手であり、障害のある方ない方がスポーツを通じて互いが理解し合う社会の実現を目指している。

「福祉現場で活動する大学生との対話の授業」

福祉現場で活動する大学生と、福祉のことを語り合います。大学生が福祉現場で感じたリアルな話を聞いて、福祉をもっと身近に感じてもらえるようになる授業です。年齢・価値観がより近い存在からの話を聞くことで、等身大の福祉を学んでいきます。

●授業のねらい

- ・大学生と対話をしながら、将来のイメージを膨らませたい。
- ・ボランティアなどの福祉活動に関心を持って欲しい。

●プログラム例（50分1コマ）

- 1.導入（福祉や障がいの基本的なことを理解する）（10分）
- 2.大学生との語り合い...  
小グループに分かれて、福祉や障がいについて大学生と語り合い、理解を深める（30分）
- 3.まとめ（感じたことや自分にできることを考える）（10分）



実際の授業の様子は下記のQRコードから動画をご覧ください。



昨年度も様々な学校で授業を行いました。  
いくつか、その中でいただいた感想を紹介します。

授業を受けた生徒からの声



授業で印象に残ったこと  
「障がいは、社会の中にあるのだということをしれた」「心のバリアフリーという言葉を知った。誰かに優しくしたい」「大学生のボランティアの人の話が面白かった」「相手を否定しない」「人によって、感じ方や感覚が違う」「障がいがあっても、自分たちより楽しそうに生きている人がたくさんいる」「自分も特性の凸凹を持っていて、それを理解してくれるような内容だった」



周りの人・自分の幸せのためにできることは？  
「クラスで辛そうな表情の人がいたら、声をかけてみる」「だれかを意味もなく否定しない」「相手のことを理解して、馬鹿にしたりしない」「相手のことを受け止めて、話を聞いてみる」「道で困っている人がいたら、見守ってみる。必要な声をかけてみる」「友達の話を実際に聞いてみる」

先生からの声



「生徒に対してもだが、教員に向けても勉強になる内容だった。」「もっと早い時期に依頼すべきだった。早くに生徒に聞いてほしかった。」「楽しめる体験が豊富なので、生徒が積極的に学べていた。」「これから受験を迎える生徒に、大学生の話が響いているようだった」

アンケート考察

●授業の満足度について  
88%の生徒が、「とても楽しかった・楽しかった」と回答をしている。どのプログラムも非常に満足度が高く、生徒が熱心に授業を聞いている様子が伺える。  
生徒満足度 **88%**

●「福祉」に対する理解度について  
77%の生徒が「福祉についてもっと知りたいと思った」と回答しており、授業を受けることで福祉について理解するきっかけ作りに効果的であると言える。  
生徒理解度 **77%**

●年度末アンケートについて  
今年度、33%の生徒が生活の中に変化があったと回答している。より多くの中高生に対して日常生活の行動変容や意識変容を促していくために、実施学校への丁寧な事前ヒアリングや振り返りを行っていきたい。